

公的年金運用改革の資産運用業界へのインプリケーション

喜多 幸之助 CMA
谷口 和歌子 CMA

目 次

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1. 公的年金運用改革の目的 | 3. 予想される資本市場への影響 |
| 2. 想定される運用改革 | 4. 予想される資産運用業界への影響 |

公的年金運用改革では、(1)運用資産の多様化(2)運用戦略の多様化(3)資産配分等における機動的な運用、が想定される。今後はGPIF等における適切なガバナンス体制の構築や、十分なリスク管理機能を持った運用組織の強化が必須となろう。改革の結果、市場では長期資金による影響力が増すと同時に、資産運用業界では際立った運用能力やサブアドバイザー機能を持つ運用会社へのニーズが増し、業界の活性化につながる事が期待される。

1. 公的年金運用改革の目的

公的年金の運用改革への注目が未だかつてない程に高まっている。運用改革の発端となったのは、安倍政権の下で2013年11月に公表された「公的・準公的運用資金の運用・リスク管理等の高度化等

に関する有識者会議」の報告書であろう。この提言の意図については、有識者会議のメンバーである伊藤隆敏教授が本誌にて詳述しているが、本稿では2つのポイントについて指摘したい。

1点目は、公的年金の積立金に課せられた本来の役割である「年金財政上求められるリターン獲



喜多 幸之助 (きた こうのすけ)

ラッセル・インベストメント株式会社 エクゼクティブコンサルタント。1989年安田信託銀行(現みずほ信託銀行)入社。年金運用部を経た後、94年に年金ALM室の立ち上げに参画。98年フランク・ラッセル(現・ラッセル・インベストメント)入社、企業年金運用に関するコンサルティング業務に従事。企業年金連絡協議会の制度研究連絡会・DC部会メンバー、日本私立学校振興・共済事業団 資産運用検討委員会委員(2009年～)。京都大学法学部卒業。



谷口 和歌子 (たにぐち わかこ)

ラッセル・インベストメント株式会社 シニアコンサルタント。1999年大和総研入社後、同社および大和ファンド・コンサルティングにて企業年金向け運用コンサルティング業務に従事(2006年～07年ペンシルバニア大学ウォートン校客員研究員)。10年ラッセル・インベストメント入社。東京大学経済学部卒業、筑波大学大学院ビジネス科学研究科修了(経営学)。